



【学校教育目標】自ら考え、判断し、人と共により良く生きようとする心豊かな子供の育成

あわてずに ゆっくりと



新しい年度が始まり、2週間が過ぎました。学校を取り巻く木々の色も、淡い花の色から、鮮やかな新緑に変わり、季節が前に進んだことに気がきます。

少し緊張した感じが感じられた入学式の1年生でしたが、今では給食も始まり、休み時間にも元気に過ごす姿が見られ、うれしく思います。

新しいスタートのこの時期は、子供一人一人が自分の居場所を確認し、新しい環境に慣れるまでの落ち着かない日々だったはずです。また、職員の顔ぶれも大きく変わり、子供たちも心機一転、期待に胸を膨らませているのではないのでしょうか。

私も赴任以来3年目になりますが、子供たちの素直さは素敵ですね。登校時のあいさつ（ワンストップ挨拶＆語先後礼）、学校内での明るい態度、そして何より6年生のリーダーシップ。学校教育は1年ごとの勝負ではありますが、各学年のときの取り組みの集大成（積み重ね）が6年生の姿となって現れると思っています。歴史ある小ヶ倉小学校の大きな看板を背負い、たくましくも優しく生活する6年生の姿は、下級生の大きなあこがれになると信じています。もちろんその陰には各御家庭の支えがあります。今年も子供たちのより良い成長を願い、各御家庭と学校とがしっかりと連携を図っていきたいと思っています。よろしくお願いします。

歓迎集会・遠足



18日、1年生の入学をお祝いする集会と遠足を行いました。集会では、5年生が花のアーチで1年生を迎え、遠足では、手を引いた6年生が1年生をリードしました。教師や友人の刺激も子供を成長させますが、環境も成長させます。上級生として、5・6年生は立派な役目を果たしました。

また、現地でも6年生は終始1年生の世話を焼いていました。行事が人を創っていきます。



5月の主な行事（予定）



日	曜	学校行事（予定）
2	金	授業参観 13:55～ 学級懇談会 14:50～ 育正会総会 15:20～
3	土	憲法記念日
4	日	みどりの日
5	月	こどもの日
6	火	振替休日
7	水	5年生 乗船体験
9	金	内科検診（高学年）
12	月	尿検査① 委員会活動
13	火	内科検診（中学年）
14	水	内科検診（低学年）
18	日	運動会
19	月	運動会代休日
21	水	尿検査②
27	火	歯科検診
29	木	耳鼻科検診
30	金	尿検査③

来月は、上のような予定になっています。あくまでも予定ですが、参考にしてください（変更がある場合は、できるだけ早急にお知らせいたします。）。)

その中で、次の点について御確認ください。

①2日（金）は、全学年一斉の授業参観及び懇談会です。場所は、各教室（5年生授業のみ家庭科室）で行います。その後の育正会総会は体育館にて行います。多くの方の御参加をお待ちしています。

今年度初めての授業参観です。新しい学年になって張り切っている子供たちの様子を御覧ください。

② 18日実施の場合は、19日（月）は代休となります。18日が雨天の場合は、19日（月）に延期です。当日の朝7時までに、雨天等による延期の場合のみ、「tetoru」にて一斉送信します。万が一19日も雨天の場合は、以降順延します（詳細については後日お知らせします。）。)

裏面あり

この時期に・・・ その①

毎年、この時期に書かせていただいている内容です。あらためて御一読ください。

1 「子供の成長は「足し算」で！」

現時点でのお子さんの成長をありのまま受け入れ、今の様子を御覧になることで、「良さ」が見えてきます。当たり前でも褒めることで定着します。

大妻女子大学の岡教授が、次のように話しています。

「子供の育ちは前にしか進みません。子供が、以前にできていた何かができなくなったように見えるのであれば、それはそれまであった力が失われたり弱まったりしたからではなく、子供の中で何かが育ったからと考えるべきです。そして今できない何かをできるようになってほしいと思うのであれば、どういう力を身に付ければそれができるようになるのかを考えるべきです。」

とは言うものの、「褒める」だけでは決して子供は育ちません。同時に「叱るべきときに叱る」ことも大切だと考えています。

○命や安全に関わるような場合

○社会や道徳のルールに反する場合

私は個人的に、褒めることのメリットよりも叱らないことのデメリットの方が大きいような思いをもっています。

ただ、「厳しく」「頭ごなしに」ということではありません。また、「他の人に迷惑をかけるからだめだ」という叱り方（指導）もあります。もちろん、自分の行為が他者にどのような影響を及ぼすかを理解させることは重要です。しかし、叱る指導をそのレベルだけに留めてしまえば、「それじゃ、他人に迷惑をかけなきゃいいじゃん」ということになってしまいます。そうならないためには、さらにもう一步踏み込む必要があると考え、私は、そのもう一步の踏み込みとして、子供たちに「自分自身の心の規準としてどうなのか」ということを問うことが必要なのではないかと考えています。

具体的に言うならば、子供に不適切な行為があった際、そのやった行為の意味、理非をはっきりさせた後、「本当にそういうことをする自分でいいの？」「あなたはそういうことをしても平気な人だったの？」と問うことです。そう問うことにより、その子自身の心の規準というものを意識させることができると考えるからです。

子供たちはどの学年においても成長過程です。心の規準など、はっきりと形づくられてはおらず、あいまいな状態ではないでしょう。

↓

か。もしかすると、心の規準ということを意識さえしていないかもしれません。したがって、上記のように問うことで、まずは子供たちに心の規準というものを意識させることが重要だと考えます。

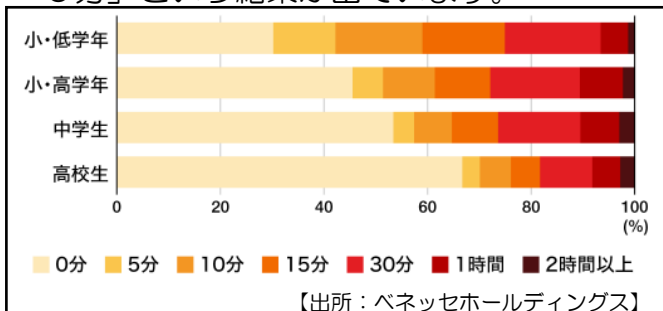
読み語り

21日（月）の朝の時間を使い、各担任による「読み語り」を実施しました。



少しずつ解消の方向に向かっているものの、昨今の「子供の読書離れ」が深刻な問題として取り上げられることがあります。

ある調査では、子供の約半数が「読書時間＝0分」という結果が出ています。



乳幼児期には、御家庭でも「読み語り」を多くされていたことと思います。しかし、子供が「字が読めるようになったから」といって、読み聞かせをやめていることも少なくないのではないのでしょうか。文字を読めても、「おはなし」を楽しめるとは限りません。また、一人で本が読めるようになって、「おはなし」を聞く喜びは別のものです。小学生には小学生の読み聞かせの楽しさがあります。

『心の成長』『集中力を育てる』ほか、「読解力」「思考力」「コミュニケーション能力」などを高めることにも効果があるそうです。

「親子のコミュニケーション」を深めるための一つのツールとして御家庭でも取り組まれてはいかがでしょうか。